



炉端の会
2020.03

「炉端の会」のひとり言-1

◇第20期「日本民家園ボランティア講座」が1月19日よりスタート

日本民家園で活動している炉端の会の会員を養成する日本民家園ボランティア講座が1月19日(日)からスタートしました。

初日となった19日は原家の2階を会場に、講座の趣旨・園の概要・炉端の会の概要などを座学で学びました。

講座の二日目となる1月26日(日)には、午前中、鈴木家・野原家・作田家の三つのグループに分かれ、炉端の会で行っている床上公開活動の一連の作業(床上の清掃・来園者への対応・囲炉裏での火の焚き方や鎮火方法等)を体験して貰いました。

二日目午後は二つのグループに分かれ、炉端の活動で必要となる防災設備(各棟の火災報知機や緊急通報用ITV)の場所の確認やそれらの使い方、床上公開に必要な水道の位置や薪置き場等を会員と共に園内を巡回する中で学んで頂きました。

今年は18名の方が講座に参加され、初日・二日目の説明を受けられました。



(19日の座学の様子)



(2日目 囲炉裏での火のつけ方)



(2日目 土間の清掃について)



(2日目 ザシキの清掃体験)



(2日目 ITVによる警備室への緊急通報実習)



(2日目 薪置き場の説明)

受講生の皆さんは1月28日(火)から3月14日(土)迄の間に、任意の3日間、会員に混ざって日常活動に参加して頂き、床上公開の実際を体得して頂きます。

「炉端の会」のひとり言-2

◇「炉端の会」、園外研修旅行実行委員会の紹介

「炉端の会」(会員約250名)では毎年秋に旅行をします。日本の民家は所在地の気候・風土によってその形、造り、間取りなどに特色が現れるので、民家園に展示されている古民家の旧所在地と周辺の古民家・文化財等を巡る旅となります。

[関東の村]「神奈川の村」であれば日帰りバス旅行、[宿場の村]「信越の村」[東北の村]ならば1泊から2泊の旅となります。少なくなって来てはいますが、寄贈主の方から歓迎され当時の生活や暮らしについて直接話を伺えることもあり、大変有意義で楽しい旅となります。

○この旅行を支えているのが実行委員会のメンバーです。

各曜日班から2名(2年任期・毎年1名交代)、炉端の会・会長、副会長2名、アドバイザー1名、計16名の構成。毎月例会の日の午後、原家2階座敷での車座会議です。

まずは会員からの意見・要望を集め行先を絞込む。

下見を行い費用を決め日程・行程(見学、宿泊、昼食、場所など)・参加者募集、葉作り、費用徴収、キャンセル処理等々…途中のトイレ休憩確保も重要案件。

1年半前から準備開始となるケースもありますが、ほとんど表に現れることは無く、まさに縁の下での力持ち的存在です。大過なく旅行が終わり収支報告、次期引継ぎ資料をまとめ、終了となります。

民家園・開園から53年、寄贈主も代替わりが進み、旅行も少しずつ変容しながら引き継がれて行きます。来年度に向け既に、実行委員会は静かに動き始めています。

(直近3年間の園外研修旅行)

(2019年)

「炉端の会」のひとり言-1

◇令和元年「炉端の会」園外研修旅行(一泊二日で実施)
研修テーマ:「佐々木家旧所在地(長野県佐久郡野添)とその周辺を巡る」
2019年10月29日(火)~10月30日(水)

見学コース:
登戸駅→旧茂木家住宅→五科茶屋本陣→佐々木家旧所在地→(ホテル)
(ホテル)→和學校・春原家住宅→小諸宿本陣主屋・懐古園・小諸市内→登戸駅



初日は雨となりましたが、集合場所である登戸駅には8時前に参加者76名が集まり、定刻に出発しました。一日目の群馬県内も雨が降って30分ほど遅延を覚えず佐久郡野添の佐々木家旧所在地付近では雨も止み、傘を持たずに周囲を見て歩くことが出来ました。その後、小諸の懐古園そばにあるホテルに宿泊した。二日目は快晴となり、気分よく和學校・春原家住宅・懐古園など小諸周辺を見学することが出来ました。
往復で利用した台風被害が大きかった上信越道碓氷井沢IC~佐久IC間の上り車線を3時間半の対面通行区間の渋滞も無く、予定通り18時半に登戸駅に帰着出来ました。



(2018年)

「炉端の会」のひとり言-2

◇平成30年度「炉端の会」園外研修旅行
「九十九里浜・旧作田家と房総のむらを訪ねる」。

今年の研修旅行は「九十九里浜・旧作田家と房総のむらを訪ねる」として旧作田家があった九十九里町と成田市の近郊にある「房総のむら」を訪問しました。



今年の参加人員は120名となったため、同一行程で11月8日(木)、13日(火)、14日(水)の3グループに分けて実施しました。

具体的な行程として右の地図で右下に位置する九十九里町では①作田家の在るバスの中からの遠望、②作田家の近くにある「伊能忠敬記念公園(伊能忠敬が生まれた場所)」、③いし資料館(海防九十九里に併設されている)を見学、④国民宿舎サンライズ九十九里で九十九里御膳(ワッパが主体の食事)をいただいた後、売店で産直、お土産の購入などしました。

昼食後、右の地図では右上の方、成田市の郊外にある⑤「房総のむら」に移動し国の重要文化財である獅子神家住宅や重要文化財である平野家住宅をガイドの方に説明して頂きながら見学をしました。古民家見学会は房総のむらを各自で自由に散策しました。

第1グループ、第2グループは18時頃に見学などを行い18時半前には登戸に帰着しましたが、第3グループは首都圏の事故渋滞などに巻き込まれ、「伊能忠敬記念公園」の見学はキャンセルとなり、登戸への帰着も19時頃となってしまいました。

(園外研修旅行実行委員の方々、お疲れ様でした)

第1グループ11/8(長野県中) 第2グループ11/13(千葉県中) 第3グループ11/14(千葉県中)

(2017年)

「炉端の会」のひとり言-1

◇2017年「炉端の会」研修旅行 11/7日、8日、9日(3班に分けて実施)
テーマ:「岩澤家・北村家の故郷と東名沿線の古民家を訪ねる」

清川村から移築された岩澤家と秦野市から移築された北村家がそれぞれ、どの様な環境の場所から移築されたのかを確認する事を主目的とした。
また、これらの家の旧所在地に行くために東名高速を利用する事から、その沿線で見学可能な古民家のある場所として、富士市広見公園→新富士中央公園→裾野IC→川崎IC→登戸駅というコースで研修旅行が行われました。

8時に登戸駅をツアーバスで出発し、東名高速の川崎IC→厚木IC→清川村(岩澤家在所)→秦野市(北村家在所)→大井松田IC→沼津IC→昼食→沼津IC→富士IC→富士市広見公園→新富士IC→長泉沼津IC→裾野中央公園→裾野IC→川崎IC→登戸駅というコースで研修旅行が行われました。

1日目は8時、快晴でしたが2日目の班はバス移動中のみ雨降りました。今日の移動は、順調で3日間ともに当初のスケジュール通りの時間で各訪問所を訪れる事ができ、帰着地の登戸には18時半に着く事が出来ました。



本研修旅行の詳細については、「炉端の会」HPの「炉端ボックス」から2017年の研修旅行を参照して下さい。

※研修旅行実行委員会の皆様のご尽力により、有意義な時間を過ごす事ができました。